

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価の集計結果(公表)

討議年月日: 令和 6 年 2 月 22 日

公表: 令和 6 年 3 月 25 日

事業所名 みらせんジュニア 熱田教室

		チェック項目	はい	いいえ	その他	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			利用定員10人を厳守していて、スペースも十分確保できている
	2	職員の配置数は適切である	5			法令に遵守した配置をしている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1		利用者の状況的に現状必要ない部分もあるが、必要に応じて検討していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			個別支援計画書に基づき、目標設定や振り返りをチームで行っている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			保護者評価に基づき、年度末に振り返りを行い、次年度の取り組みへの参考にしていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			年度末にHPで公開しています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		同法人の他事業部より意見をいただくことはありますが第3者による外部評価は行ってない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		1	毎月研修を行っております
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			利用前に保護者と本人からアセスメントをとり、利用ニーズに応じた個別支援計画書を作成している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			契約時や体験時に共通のアセスメントシートを使ってその時の状況の聞き取りを行い、把握に努めている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			朝礼/終礼などで確認を行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		1	計画書や日報、作業記録などを参考にしながら考えている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			利用時間に応じて、内容を変更したり、長期休暇には企業様へのインターンシップを行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4		1	リフレッシュタイムやお出かけリクエストなど、教室での作業以外にも他の子との関わりやグループワークを提案している
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5			毎回朝礼時に確認している
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5			毎回終礼時に確認している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			日々の日報や保護者への連絡帳に加えて、その日の作業記録も残し、支援の改善に努めている
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			最低半年に一回のモニタリングを行い、保護者を呼んで個別支援計画書の振り返りや見直しを一緒に行っている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5			基本的に作業を通して様々な経験を提供していますが、自立に向けた支援や、余暇活動についてもその子にあった支援を行っている
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		毎回児童発達支援管理責任者が参加している。現場の全職員がふさわしいと考えるので、管理者以外でも参加できるようにしていきたい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			学校から直接情報がおろされることはほとんどないが、利用者がおたよりをもってきてくれるのでそれで調整を行っている。不明な点は直接確認をとっている

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	1	4	医療的ケア児を受け入れられる人員配置体制になっていないので受け入れを行っていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	3	2	利用者の9割以上が高等部からの利用のため、就学前の情報共有はできていない。保護者からの聴き取りにとどまっているが、それで十分だと考えている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	1	1	同法人内に移行する場合は提供を行っているが、それ以外については問い合わせがあった時のみ提供を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	1	就労準備型デイなので、左記のような機関ではなく、就労に向けて、企業様や事業所の方から助言をいただいている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	3	1	交流の場は少ないが、必要に応じて回数を増やすことも検討していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2		管理者が毎回参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			基本的に送迎を行ってないので、連絡張で状況をお伝えしているが、不十分な時は電話やモニタリング時に確認している
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	1	相談があった際は経験則に基づき、事業所から助言を行っている
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			運営規定や重説に基づき説明を行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		1	必要と感じてもらえるかはわかり兼ねるが、できる限りの助言を行っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			保護者会の設営や、インターンシップ報告会というイベントに保護者を呼んで交流の場を作っている。家族会という会員制度もあり、毎月情報を公開している
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			苦情窓口を設けて適切に対応している
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			毎月おたよりの発行やブログ、インスタグラムで日々の様子を発信している
	35	個人情報に十分注意している	5			個人ファイルは鍵付きのロッカーで保管している。SNSを活用する際は特定できそうなものに対してぼかしを入れるなどして発信している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			本人の特性や家庭事情を加味して対応している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	1	定期的には行えてないが、今後定期的にできるように考えていく
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			策定し、周知している
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			毎月1回、防災訓練をおこなっている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			毎年研修を行っている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			重説にも記載していて、契約時にも十分説明を行っている
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			アセスメント時に聞き取りを行い、保護者から対応の仕方を聞いている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			毎月共有している